

第3回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

- 1 審議会名..... 第3回安曇野市行政改革推進委員会...
- 2 日 時..... 令和元年5月28日(火) 午後1時30分から午後4時00分まで
- 3 会 場..... 安曇野市本庁舎3階 会議室301
- 4 出席者..... 那須会長、丸山副会長、望月委員、中山委員、宮崎委員、小岩井委員、
降旗委員、藤森委員、安田委員、栗原委員
- 5 市側出席者..... 金井総務部長、関総務課長、鷹行政管理係長、飯田副主幹
- 6 公開・非公開の別..... 公開
- 7 傍聴人..... 4人 記者..... 2人
- 8 会議概要作成年月日..... 令和元年5月29日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 会議事項
第4次行政改革大綱の策定についての検討
 - (4) その他
今後のスケジュールについて
 - (5) 閉会
- 2 会議概要
 - 重点項目、1. 電子自治体の推進について、IT技術を使って行うのは効率化なので、スリム化ではなく効率化という表現が良いと思う。
 - 人口問題について、第3次では人口減少対策と自主財源の確保という2点がうたわれているが、何をすれば人口減少を抑制することができるのか。そういったことを検討していった方が良い。
 - 人口減少の歯止めに向けた行政としての施策を市民にわかるよう重点目標等に落とし込んでいく必要がある。
 - 少子高齢化問題の対策について、平均寿命と健康寿命との間をどう縮めて行くのかという議論がどこでもされていない。今元気なお年寄りをいつまでも元気でいてもらうような施策を何か考えていかないと問題があるように思える。
 - 病気に対して手当てをしていくということは理解できるが、病気でない健康な状態でいつまでもいられるようにどうするかを考えていく必要がある。今の健康状態をどうしたら維持していけるかアドバイスしていくくらいのこととしても良いと思う。

⇒ 最初の人口問題については、人口減少を少しでも鈍化させるために、まだまだ地元を呼び込む、地元に戻ってきてもらうなどを今以上に市として持続して行くために真剣に重点的に考えなければならないことだと考えている。
次の少子高齢化の問題について、長寿社会課や健康推進課といった部署で事業展開していく上で力を入れて取り組む必要があれば、重点項目に挙げていただき、進捗管理を確認していくことも可能である。

⇒ 人口減少について補足する。人口ビジョンを策定し8万3千人程度まで減少幅を抑えようと色々な取り組みを行っている。その効果はすぐ出てこないが市としては細かな取り組みを行っている。
また健康長寿については健康推進課で主に取り組んでいる。健康長寿なので、健康で長生き

する。生きている間は健康で過ごすということである。

- 現在、住民基本台帳の人口と国勢調査の数値を使用している場合があるのでどちらかに統一した方がよい。出来れば住民基本台帳上の人口を比較していった方がよいと思う。

⇒ 住基人口と国勢調査の人口に差があり、人口ビジョンについては国勢調査の数値を使用しており、住基人口とは乖離するので、どちらの数値を使うにしてもしっかりとわかるようにどの数値を使用していると周知して説明していくことが大切なことである。

- 健康長寿について、年を経れば経るほど心と生きがいを残してあげないと高齢者は元気で生きられない。それが抜けないようなことを合わせて考えていくことを願う。

また地域コミュニティも大事だが、市役所内部にそういったことを専門的にやる場所がこれからはとても大事なことだと考える。

- 向かう先のまちづくりの将来像はどういうまちづくりなのか、イメージできるようなキーワードづくり、いわゆる見える化とわかりやすいということは必要なことであり、安曇野市がどんなまちづくりをしているのか。何かイメージできるようなものがほしい。

⇒ 選択と集中をしていかないとこれからの行財政がもたないというベースがあり、そうした中で、先ほど出た見える化は一つの手段として、しっかりと実践していかなければいけない。行財政改革という視点から、何を選択し、何に集中していくのかという視点で願う。

⇒ 補足説明させていただく。将来の安曇野市がどうなるのか、どうしていくのか、どうなろうとしているのか。どういう目的に向かって進もうとしているのか。このことについては市の根幹をつかさどる計画、総合計画がある。現在、検討していただいているこの行財政改革大綱も総合計画を補完するための一つの個別計画である。行財政改革の着眼点は何かという限られた財源を如何に効率よく効果的に使用して仕事をする。その点を市はどう進めるべきなのか、委員の皆様の貴重なご意見をいただきながら、柱を作っていくのがこの委員会の仕事だと考えている。

- 地域コミュニティの再構築について、どうしてもここだけはこの大綱で実施するというものがないと協働のまちづくりを進めるのが難しいと感じる。市民側から見て協働の場をどうしていくのかが見えないので市民に対して見えるようにしていく必要があるので具体的に書き込む必要がある。その中で一番大事に思うのは職員の意識改革だと考える。

⇒ 職員としても地域に積極的に入るといった姿勢を持つことで行政が良くなることに繋がっていくという意識を持たせるように考えていかなければならない。

- 意識改革のようなものを全面的に持ってくるような今までとは組み方を変えるくらいの形じゃないと市民にも職員にも意識が変わらない。大きく変えるべきところは大きく変えていく時期が来ているので何かこの中に盛り込めればと考える。

- 大義名分を掲げても安心して暮らせなければ意味がないので、このことを何とかしていかなければならない。そのためには行政として、自主財源の確保、財政基盤の確保が重要な項目になってくる。自治体として収入の読める自主財源を確保していくことは行財政改革の一端になるのでしっかりと考えていきたい。

- 豊かな田園都市には農家が担っている部分大きいと考えるので、そういったことも忘れずに入れていかなければいけない。

⇒ 部局には様々な事業があり、それが効果的なのか、不足しているのか、実施する必要があるのかの判断を職員だけに担わせると緩くなってしまったりもかもしれないので、行革大綱の中で、そういったところに触れていただいて、職員の戒めではないが見直しをしていく中で、改めていく、良くしていく、廃止していく指針になるのが行革大綱だと考える。そういった視点でご意見をいただくようお願いする。

- 資料に記載されている理念、方針等で基本は十分だと考える。七つの重点項目をまとめて三つの基本方針にしてあるが、重点項目を増減させるということならば、その意見に応じて考えなければいけないが現在の基本方針、重点項目も大枠としては問題ないと思うのでたたき台として進めていただきたい。
- 何をやるにしても、例えば地域コミュニティの再構築をするにしても少子高齢化が深刻な影響を及ぼしている。根本的に問題を解決するには、対策として長期・中期・短期の中でそれぞれどうしていくか考えていかないと少子高齢化と一括りに考えるのは少し違う感じがする。
また雇用を伴う観光産業について、山岳観光は全国的にも特化して言う地域であるので、これを核として人の流れを呼び込みたいと個人的には考えている。
- 基本理念で組織の合理化と記載されているが合理化と記載されているとスリム化や縮小が連想されてしまうがそういう記載で良いのか。
- ⇒ 組織の合理化というのは、市民が見たときに分かりやすい組織にしましょう。また仕事も職員が働きやすい組織編制を考えていけばどうかという立ち位置で考えてある。あまり組織の合理化に触れる必要がないということであれば削除や違うフレーズに変更していけば良いと思う。
- 重点項目案の中に選択と集中による行政課題の優先化・明確順位化というのを盛り込んだらどうか。また一つの課題として職員の労務改善と質の向上、行政課題の効果だしを取組の視点として入れておく必要があると考える。スピード感。テンポが求められる行政課題とそうではない行政課題もあると思うので、今後、実施計画の中の目標を立てる中でそういう視点を盛り込んだ方が良く考える。
- 選択と集中については第3次大綱の策定時にも総合計画のマネジメントということで取り込んでいる。今度の第4次にもさらに推し進めるということで記載をお願いする。
- 市ホームページについて、いまだに古い情報のまま更新されていないページが散見される。以前も話したが、年2回程度は確認する体制を構築してほしい。
- ⇒ この課題については各課に広報委員を選出してチェックするような体制をとっている。ホームページの管理と広報のあり方を研究する取り組みを始めている。
- 安曇野市が関わっているイベントについて、その内容を一元的に発信するように検討をお願いします。
- ⇒ レイアウトを検討して、知りたいカテゴリをクリックするとその時期が一元して見られるようなイメージということで良いか。担当に伝えておく。

以上